

〈神の指示に基づく幕屋建設〉

この40章では、神の幕屋建設についての命令が記されています。しかし、神は何の準備もなくイスラエルの民に幕屋建設を命じられたのではありません。神はモーセを通して35章4節以降、幕屋の建設のための準備について細かく指示なされてきました。そこでは幕屋がどのような材料でどのように作られるべきか、幕屋の内装に至るまで細かく規定されていました。幕屋の中に置く様々な祭具や備品、祭司の服についても細かく指示されました。神は事前の準備を民にさせた後、いよいよ幕屋の建設を命令されました(40:1, 2)。

しかし、ここでも神は既に準備させていた幕屋の備品や祭具について、それをどのように配置するかについて事前に指示をなさいました(40:3-8)。さらに、神はモーセに対して、「幕屋とその中のすべてのもの」を聖別するように命じ(40:9-11)、アロンとその子らに対しても油を注いで聖別するように命じられました(40:12-15)。このように神は、幕屋建設の準備からその最終的完成に至るまですべての面で細かく指示したのです。また、モーセも神の指示どおりにすべてを行ないました(40:16-33)。

〈幕屋建設から教えられること〉

幕屋はイスラエル共同体が神に礼拝を献げる場所です。しかし、神はその幕屋の建設において、このような細かい指示をイスラエルの民になさいました。ここからわたしたちは、神礼拝が人間の主観的な行為、恣意的な行為ではないということを教えられます。神を礼拝する目的は人間のためではありません。それは神の栄光のためです。だからこそ神は幕屋建設にあたって、神ご自身の意志をはっきりとイスラエルの民に示されたのです。また、神は幕屋とその中のすべてのものを聖別なさいました。これは幕屋がどんなに人間にとって重要であろうと、神のものであることを意味しています。幕屋も、幕屋での礼拝も神の栄光のためにあるのです。神は幕屋建設を命じること

によって、イスラエルの民を神の栄光をたたえる礼拝共同体として形成して下さったのです。

〈完成した幕屋における神の臨在〉

40章34節にあるように、完成した幕屋を雲が覆い、主の栄光が幕屋に満ちました。雲は神の臨在のしるしです。幕屋は単に神を礼拝する場所というだけでなく、神ご自身が臨在して下さる場所です(33:9を参照)。神は幕屋に臨在することによって、イスラエルの民のただ中に住んでくださり、民と共にあってくださいます。40章35節を見ると、主の栄光が満ちた臨在の幕屋にモーセが入ることができなかつたとあります。けれども、これは主の臨在に人間が近づけないということをお教えているわけではありません。主の臨在にあずかるには主の招きが必要であることを教えるものです。神は民を幕屋へと招くことによって、御自身の臨在の中に入れて下さるのです。

しかし、幕屋の中だけが神の臨在の場所ではありません。36節にあるように、雲は幕屋を離れます。神は幕屋の中だけでなく、全地に満ちています(詩編72:19、イザヤ6:3)。だからこそ神は、38節で、「昼は主の雲が幕屋の上であり、夜は雲の中に火が現れて、イスラエルの家のすべての人に見えた」とあるように、民がどこにいても共にいてその旅路を導かれたのです。けれども、民がどこにいても神の臨在にあずかることができるのは、彼らに主の栄光が満ち溢れる特別な場所である幕屋が与えられているからです。そして、彼らが幕屋において神を礼拝する民であるからです。イスラエルの民が幕屋での神礼拝を通して主の満ち溢れる栄光をたたえる民であるからこそ、どこにあっても神は民と共にいて下さるのです。

新約において神の幕屋とはイエス・キリストが共にいて下さる場所です。つまり、キリストの体である教会こそが神の幕屋です。わたしたちもまた主の日の礼拝を通して神の栄光をたたえ、神の臨在にあずかると共に、神の導きの中で一週間の旅路を神と共に歩むのです。(弓矢健児)

テキスト 出エジプト記 40章
参照カテキズム 子どもカテキズム 問43～50

〔単元のねらい〕

宗教改革記念日であるので、できれば、それとの関連で語る事ができればと願う。とくに神礼拝のすべては、人間が勝手に考え出したものでなく、神様からの啓示によることを子どもたちに知ってもらいたい。モーセが主の命じられたとおりに行ったことが繰り返し記されていることが重要であろう。なお、説教展開例は小学校高学年を意識した。

「神さまが命じられたとおりの礼拝」

愛する子どもたち、おはようございます。

今から500年昔、ヨーロッパのドイツ、ヴィッテンベルクという町のお城の教会で、こんなことがありました。その教会の扉に、マルチン・ルターという修道士さんが、『九十五箇条の提題』という文書を貼り付けたのです。このことがきっかけとなって、教会を聖書の教えに従って改革して行くという運動が広まって行ったのですが、今日の主の日は、そのことをおぼえる「宗教改革記念日」です。

宗教改革は、何よりも、教会改革で、とくに教会の“命”と言える礼拝を聖書の教えに従って改革しようという、礼拝改革の運動でした。要するに、その頃は、教会の礼拝が、聖書の教えに従って行われていない状況だったので、それをもう一度、聖書の教えに従って、神さまのすばらしさがたたえられるような、神さま中心の礼拝に戻そうとしたわけです。聖書の教えに従って、というのは、神さまのご命令に従って、ということです。それで、今日は、宗教改革記念日ですから、神さまのご命令に従って礼拝することがどんなに重要かということを、時代はもっともっとさかのぼりますが、今からおよそ3500年以上も昔だけでも、神さまによってエジプトから救い出されて、荒れ野を旅していた、モーセさんとイスラエルの人たちが、その荒れ野で、神さまのご命令に従って、礼拝するようになった様子を見ておきましょう。

神さまは、モーセさんに「臨在の幕屋」を建てなさいと命じられました。この臨在の幕屋は、荒れ野で、神さまがイスラエルの人たちと一緒にいてくださる場所、そして、イスラエルの人たちが神さまを礼拝して、神さまのすばらしさをほめたたえる場所として与えられたものです。神さまは、イスラエルの人たちがエジプトを脱出して二年目の元日、一年の最初の日に、今まで、やっぱり、神さまのご命令の通りに作って来た、いろんな品々を配置して、「臨在の幕屋」を組み立てるようにお命じになったのです。

〈臨在の幕屋の絵などを見せながら〉

はい、これが、「臨在の幕屋」です。それで、特に大事な場所、幕屋の心臓に当たる場所ですが、それは、このような四角いテントの中に「至聖所」と呼ばれる場所が作られました。それで、モーセさんが神さまのご命令の通りに行ったことがこのように書いてあります。20節、21節です。「次に、彼は掟の板を取って箱に入れ、箱に棒を差し入れ、箱の上に贖いの座を置き、その箱を幕屋の奥に運び入れた。そして、至聖所の垂れ幕を掛け、掟の箱を隔てた。主がモーセに命じられたとおりであった」。至聖所の中には、掟の箱、普通、契約の箱と呼ばれる箱が配置されました。実は、その箱の上の「贖いの座」に、天から、神さまが降ってお出でになって、イスラエルの人たちに語りかけられ、イスラエルの人たちと一緒にいてくださ

るのです。この至聖所は、幕屋の他の部分と垂れ幕で仕切られました。それは、罪ある人間は、完全に聖なる神さまと直接にはお会いできない、お会いすると、罪ある人間は滅ぼされるしかないからです。しかし、この幕屋で、神さまのおそば近くで、神さまにお仕えする仕事をするように命じられた人たちがいました。その人たちが、モーゼさんのお兄さんのアロンさんとその子孫の人たちでした。祭司と言います。15節に、「あなたは、彼らの父に油を注いだように、彼らにも油を注ぎ、わたしに仕える祭司としなさい。彼らがこのように、油を注がれることによって、祭司職は代々にわたり、永遠に彼らに受け継がれる」という神さまのご命令が書いてあります。

さて、モーゼさんが、神さまのご命令の通りに、臨在の幕屋を組み立てて、それが完成すると、雲が幕屋を覆って、神さまの栄光、すばらしさが幕屋に満ちました。雲は、神さまがおられることの中に目に見えるしるしです。ところで、神さまは、完全に純粋な霊でいらっしゃる。霊ですから、人間の目には見えません。しかし、神さまは、雲を御自身が一緒にいらっしゃることに目に見えるしるしとしてくださったのです。それで、神さまが、契約の箱の贖いの座に降ってこられると、雲が幕屋を覆い、神さまの栄光が幕屋に満ちて、モーゼさんは幕屋に入ることができませんでした。そして、イスラエルの人たちも、荒れ野の旅へと出発することができませんでした。雲が幕屋を離れて昇ると、モーゼさんとイスラエルの人たちは出発できたのです。神さまは、イスラエルの人たちから決して離れることなく、昼は雲によって、夜は雲の中の火によって荒れ野の旅を導いてくださいました。

今日の聖書の箇所から教えられること、それは、神さまを礼拝することは、神さまのご命令の通り

に行うことです。人間が考え出すようなものを礼拝に持ち込んではいけないということです。たとえば、先週のお話のように、神さまを金の子牛のような、目に見える形にあらわして、拝んではいけないのです。神さまは命じられました。「あなたはいかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。あなたはそれらに向かってひれ伏したり、それらに仕えたりしてはならない」(出エジプト20:4, 5)。

モーゼさんたちが、神さまのご命令の通りに、礼拝を行うようになったことは、このとき、モーゼさんが、神さまのご命令の通りに、礼拝の場所、「臨在の幕屋」を組み立てたことに示されています。16節にこう書いてあります。「モーゼは主が命じられたとおりにすべてを行った」。

目には見えない神さまを礼拝するには、神さまが命じられた通りに礼拝することです。イエスさまはこう教えてくださいました。「神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない」(ヨハネ4:24)。それで、今も、わたしたちが、神さまのご命令の通りに礼拝するとき、神さまの栄光が輝いて、神さまのすばらしさがあらわれます。今、わたしたちが、教会学校の礼拝をしていて、モーゼさんのときのように雲がこの部屋を覆うことはありません。でも、聖霊なる神さまがわたしたちと一緒にいてくださいます。そして、御言葉の説教を通して、わたしたちに語りかけてくださいます。

今日、宗教改革記念日にあたって、もう一度、神さまのご命令の通りに礼拝することの大事さをおぼえて、これからも、神さまのすばらしさがあらわれ、神さまが喜んでくださる礼拝をみんなでおさげして行きましょう。(長谷川潤)

[今週の暗唱聖句] 出エジプト記 40章16節

モーゼは主が命じられたとおりにすべてを行った。

〈ねらい〉

「幕屋建築」を通して、礼拝の大切さ、礼拝によって与えられる恵みを感じる。

〈展開例〉

エジプトを出発したイスラエルの人たちは、40年も旅を続けました。旅の間、人々はテントで生活しました。「出発！」となると、人々はテントをたたんで、次の所まで運んでいきます。礼拝はどうしていたんでしょう？ 旅の先々に教会があったかな？ いえ、荒野の旅でしたから、教会（神殿）はありませんでした。神様は、その代わりに、イスラエルの人たちが礼拝をするために、持ち運びできる幕屋を、神様の指示どおりに作るように命じられました。木で枠を作り、そこに布や動物の皮をかけてつくりました。その中心は、大切な至聖所と聖所です。その外には庭があって、さらに外側は亜麻布と柱とでできた囲いがありました。人々はこの庭のところで、礼拝したんでしょう。旅のときには、幕屋を分解して、皆が力を合わせて運んだんでしょう。皆で幕屋を運ぶ真似をしてみましょう（重い荷物を担ぐ真似をして歩く）。

大変ですね。そんなに大変なのに、どうして、神様は幕屋を作るように命じられたんでしょうか？ それは、礼拝がとっても大切だからです。そして、幕屋は、旅をしていても、神様がイスラエルの人たちと一緒にいてくださることの印でした。神様は、「正しく」礼拝することも、大切なこととして命じられたんですよ。

今は、幕屋の代わりに教会で礼拝をします（運ばないでいいからよかった！）。私たちは、教会で礼拝をささげ、喜んで、神様のみ言葉を聞きま

す。そのとき、私たちの目には見えなくても、イエス様が私たちと一緒にいてくださるんですよ。今日は「宗教改革の記念の日」です。それは、教会が、神様が聖書に教えてくださったように、正しく、喜びに満ちた礼拝をするための運動の始まりでした。

〈工作とお話の続き〉

「幕屋建設」のつもりで、折り紙で箱をつくる。できたら一つを皆の真ん中に置く。

箱を見ながら、荒野にいる間、イスラエルの人たちは、幕屋を中心に生活していたことを、想像する。十二部族は、幕屋を中心に、それぞれに割り当てられた場所に集まって、テントで生活した。

幕屋には昼の間、雲が覆っていた。それは神様がそこにおられることを示す印。（綿のようなものをかけてみる）。夜は、暗いから雲は見えない？

でも、雲の中に火が現れて、ちゃんと見ることができた。不思議！

雲が幕屋から離れたら、出発の合図だった。そして、イスラエルの人たちが移動している間、「昼は雲の柱が、夜は火の柱が、民の先頭を離れることはなかった」（出エジプト13:22）。

〈お祈り〉

私たちの天のお父さま。今日も私たちを教会に集めてくださって、皆と一緒に礼拝・分級をすることができてありがとうございます。イエス様が、私たちと一緒にいてくださってありがとうございます。イエス様のお名前によって、お祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

神様が教えてくださった礼拝を守り、従う。

〈はじめに〉

今日は宗教改革記念日です。今の礼拝が当たりまえのようにささげられています。多くの戦いと犠牲を通して与えられたものです。御言葉の教えに従い、神様中心の礼拝が続けられています。子ども礼拝のプログラム、内容を子どもたちと確認しながら、豊かな礼拝がこれからもささげられますよう祈りましょう。

〈御言葉に聴きましょう〉

- ① モーセさんにお話しをしたのは誰ですか。(1節)
- ② 第一の月の一日、神様はモーセさんに何を建てなさいと言われましたか。(2節)
- ③ 神様はモーセさんにたくさんの命令を出しました。モーセさんは神様の言われたとおりにしましたか。(16節)

〈展開例〉

今、私たちは、教会にいます。もう一度よくこの教会を思い出して見ましょう（実際に子どもたちと歩いてもいいかもしれません）。玄関外には何がありますか？（説教題や集会案内の看板など）玄関には、受付や聖書讃美歌、週報ボックス、掲示板などがあります。礼拝室に入ると何がありますか。イス、机、オルガン、ピアノ、講壇、洗礼鉢、マイク、スピーカー……など。私たちは、大人の人たちに、全部用意していただいて、毎週礼拝が守られていますね。礼拝プログラムはどうでしょう。毎週毎週、同じ方法で礼拝がささげられています。これもちゃんと祈りをもって考えられたプログラムなんですね。偶然にこういうやり

方になっているわけではありません。

ずっと昔のイスラエルの人々にも、神様は神様を礼拝する場所をつくることを命令されました。それまでは、特別な場所はなかったのです。神様を礼拝する場所のことを、このときは「幕屋」と呼びました。イスラエルの人々は旅をしますから、幕屋は組み立て式で持ち運びができるものでした。今の私たちの教会とは違いますね。神様はモーセさんに、細かに、幕屋の大きさや中にどんなものを置いたらいいのか、詳しくお話になりました。そして、人々は、モーセさんの言われるとおり、心から進んで、喜んで、幕屋を作るための材料をささげました。また、ベツアルエルとオホリアブという神様から特別に知恵が与えられた人が一生懸命心を込めて働いて、皆も協力し、幕屋を建てる準備をしました。それから、幕屋が組み立てられ、たくさんの礼拝するための道具が、決められた場所に一つひとつ置かれました。モーセさんは、神様から言われたとおりであることを確認して、とても喜びました。

この幕屋の一番大事なお部屋が「至聖所」と呼ばれる奥の部屋で、そこには、神様がもう一度くださった十戒を書いた板が、契約の箱に入れられました。罪がある人間は入ることができない聖なるお部屋でした。手前の部屋と幕で仕切られ、手前の部屋には、パンを置く机や、明かりをともし金のしょく台、香をたく祭壇がありました。モーセさんは神様が言われたとおりの幕屋を組み立てました。自分で勝手に作ったのでもなく、自分の好みで飾ったのでもありません。神様はこの幕屋をとても喜んでくださったしるしとして、雲で覆い、神様のご栄光で満たされました。

〈お祈り〉

神様、私たちの教会を、礼拝を、神様のご栄光が現れるものとして祝福してください。アーメン。

〈ねらい〉

すべて神さまのご命令どおりに幕屋を建て、礼拝をささげたモーセの神さまに対する姿勢を通し、礼拝が神さまのご命令に従って、神さまの栄光をあらわす為にささげるものであることを学ぶ。

〈ワーク〉

幕屋の絵などを見せながら、聖書を開き下記の問いに取り組みましょう。

【復習】

先週の学びはモーセがなかなか山から下りてこないことにイスラエルの民が不安を覚え、神さまに背き十戒の戒めを破った箇所でした。

1. 神さまは何を見て、イスラエルの民に対してお怒りになられましたか？

(解答例：金の子牛への偶像礼拝)

【1～7節】

2. 神さまはモーセに何を造るように命じられましたか？

(解答例：臨在の幕屋)

【8～11節】

3. 神さまは油を使って幕屋やその中の全てのものをどうするように命じられましたか？

(解答例：全てのものを聖別する)

【12～16節】

4. 神さまはアロンとその子らを何の働きに召されましたか？

(解答例：祭司)

【17～33節】

5. 幕屋の奥の至聖所に十戒が入った契約の箱を置くなど、モーセは全て神さまの命じられたとおりに行いましたか？

(解答例：全て神さまの命じられたとおりに行った)

【34～38節】

6. 幕屋が完成するとどうなりましたか？

○に入る言葉は？

「○は臨在の幕屋を覆い、主の○○が幕屋に満ちた。」

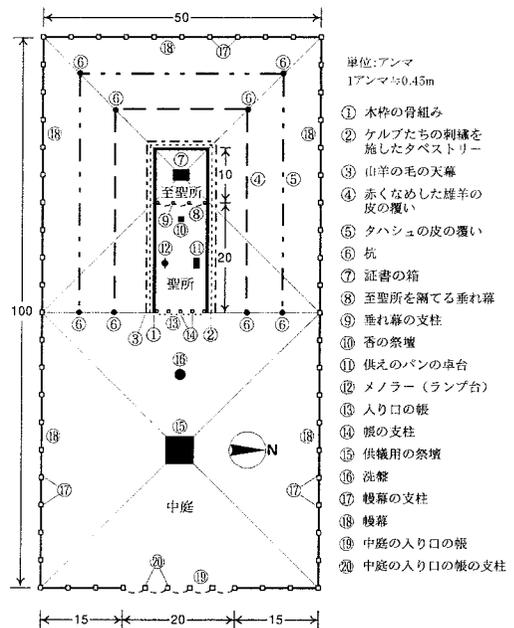
(解答例：雲／栄光)

7. 今のわたしたちにとっての「幕屋」とは何にあたりますか？

(解答例：教会)

〈祈り〉

天の父なる神さま、あなたの尊いお名前を賛美します。モーセがあなたに命じられたとおりに幕屋を建て、神さまの栄光をあらわすために礼拝をささげたことを学びました。私たちも神さまを中心に神さまのために礼拝をささげ、み言葉の恵みに感謝して一週間の歩みが守られますように。イエス様のお名前によってお祈ります。アーメン。



(K. Kochによる『旧約新約聖書大辞典』より、一部修正)

9 幕屋と中庭。

出典：

岩波書店『旧約聖書Ⅱ 出エジプト記 レビ記』

〈ねらい〉

神様が与えてくださっている礼拝の喜びを見つめ直す。

〈展開例〉

①今日の箇所は、神様がイスラエルに礼拝の場として「幕屋」を造るように求められ、それが実現したことを伝えている。イスラエルに礼拝が与えられた場面と言える。今日の箇所は出エジプト記の最後の部分である。物語の結末、話の最後とは重要なことが書かれている部分。つまり、エジプトから救われた者達にとって「幕屋」がとても大事ということだ。もう少し言うと、神様に救われた者達のストーリーは「礼拝」という結末を迎えるということ。聖書は、それほどに「礼拝は特別なこと」と君達に告げる。

Q. では、皆にとって礼拝とはどんな時間だろうか？「話が長い」「退屈でつまらない」こんな風に感じる時があるかも。反対に「元気がでる」「楽しい」こんなときもあるだろう。礼拝への感想は様々だろうが、「礼拝とは何なのか」と問うなら、その答えは「皆で神様と心を通わせる場所と時間」である。神様は救いだした者達と心を通わせるための場所と時間を求められ、それを実現された。これが「幕屋」。

②「礼拝は大切」と言われて、実感のある人は「ああ、そうだなあ」と思える。でも実感のない人は「そうは言ってもなあ」と思うかもしれない。モノの大切さは、それが無くなったことを考えるとわかりやすい。礼拝が君の生活からなくなるとどうなるのか？礼拝が無くなれば、神様と心通わせる機会がなくなる。すると、神様がいるんだか、いないんだかよくわからなくなってくる。先週、皆は「人生を導くモノがな

いと人は不安になる」と聞いた。そして人は不安が嫌なので自分で「人生を確かにするモノ」を決めてそれを自分の人生の確かな手掛かり、「神」に仕立て上げる。だがこの世界は神様と人間と一緒に生きる未来を目指して進んでいる。まがいモノの神を慕い続ける者に未来の居場所はない。平たく言えば「いつか滅び去る」。短く整理すると「礼拝なし」⇒「不安」⇒「神をねつ造」⇒「滅びる」ということ。生活の中に礼拝があるかどうか君の未来を左右する。反対に礼拝で神様と心通わすことが出来たなら、それは安心となり、神様を造るのではなく神様に自分という人間を造りかえられて、いつまでも続く喜びへと君は至る。

③だが神様と心を通わせるためには相手の思いを知らなくてはならない。人間もそうだが「思い」は「言葉」となって現れる。皆がどれだけ自分の思いを投げかけても、神様の思いを受け取らなくては一方通行。礼拝では説教を通して、君達に神様の思いが投げかけられる。もしそこで言葉がわからなければ礼拝は退屈な場かもしれない。でも、君達は成長著しい中学生である。必ず言葉は少しずつわかっていく。神様の言葉がわかってくると礼拝は少しずつ神様がわかる場所になっていく。礼拝のあるところに神様は必ずおられる。そのハッキリ度は成長期の君達に個人差があるだろう。それぞれ今受けている神様のハッキリ度が、礼拝のある生活の中でますますクッキリ鮮やかにされることを願う。

〈祈り〉

私達と心通わすことを求められる神様。「私達を愛しておられるあなたに確かにおられる！」とますます、ハッキリわかるようにしてください。アーメン。